

担当責任理事 理事	委員会名	委員長 ・支部長	平成26/27年度 課題と抱負	平成26年度終了時中間報告等	平成26 / 27年度総括
	北海道支部	笠原 正典	北海道病理学会(北海道医学大会病理分科会)、標本交見会、病理夏の学校を核に、北海道支部における学術活動の活性化、診断能力の向上、若手人材のリクルートを図っていきたい。	北海道支部の主な活動は、北海道病理学会(北海道医学大会病理分科会)、標本交見会、病理夏の学校の三つである。病理学会(第47回)は平成26年10月11日、旭川医科大学医学部免疫病理分野の小林博也教授を会長として、旭川グランドホテルにおいて開催された。特別講演2題(北海道大学 田村保明特任教授、北海道大学 谷野英吉准教授)、一般演題2題の発表があり盛況であった。標本交見会は、札幌厚生病院病理診断科の村岡俊二先生が世話人となり、札幌厚生病院を会場として、計6回開催された。病理夏の学校(第11回)は、「病理の魅力を知って医学を2倍楽しもう!」というテーマで、北海道大学病理学講座腫瘍病理学分野の田中伸哉教授が世話人となり平成26年7月12日から13日にかけて定山荘ニューホテルにおいて開催された。神戸大学医学部附属病院病理部の伊藤智雄教授による「臨床病理学は美しい!」と題した特別講演をはじめ、最先端の病理学研究から病理診断の第一線までをカバーする盛りだくさんのプログラムが組まれ、総勢122名(うち学部学生89名、大学院生:研修医14名、スタッフ他39名)の参加があった。	北海道支部の主な活動は、北海道病理学会(北海道医学大会病理分科会)、標本交見会、病理夏の学校の三つである。病理学会(第48回)は平成27年10月17日、札幌医科大学医学部病理学第二講座の澤田典均教授を会長として、札幌医科大学において開催された。特別講演2題(札幌医科大学 佐久間祐司准教授、旭川医科大学 武井英博教授)、一般演題2題の発表があり盛況であった。標本交見会は、市立札幌病院病理診断科の深澤雄一郎先生が世話人となり、市立札幌病院を会場として、計4回開催された。病理夏の学校(第13回)は、「病理診断の面白さを知ろう」というテーマで、札幌医科大学付属病院病理診断科の長谷川匡教授が世話人となり平成27年7月4日から5日にかけてアパホテルリゾートにおいて開催された。専攻数による「なぜ病理学を主人とした漫画フジャイルの原作を書くに至ったか」と題した特別講演をはじめ、最先端の病理学研究から病理診断の第一線までをカバーする盛りだくさんのプログラムが組まれ、総勢103名(うち学部学生47名、研修医9名、スタッフ他47名)の参加があった。平成26年度の活動については、同年度終了時中間報告に述べたとおりである。
	東北支部	長沼 廣	病院病理医の立場で東北支部のお世話をすることになりました。大学と病院との連携を密にして、少ない病理医が生きて仕事が出来ようような環境作りを皆で考えます。活気ある支部総会を運営します。学生をリクルートするためにも若手病理医のモチベーションや診断力アップに取り組めます。病理夏の学校を見直してみます。また、基礎研究難関が進む中、若手病理医の研究発表も支部総会に積極的に取り入れていきます。	26年7月に盛岡において若手医大宮田泰典教授主催の79回支部学術総会を開催した。特別講演は若手医大病理診断学講座 菅井有教授、若手医大皮膚科学講座 赤坂俊英教授であった。一般演題は19題であった。役員会の承認を得8月に若手病理医実態アンケート調査を行った。東北六県の若手病理医委員会から回答を得た。若手病理医のアンケート結果を参考にしながら、27年2月に長沼主催の80回支部学術集会を開催した。特別講演は弘前大病理診断学講座 黒瀬順教授、教育講演は若手医大病理診断学講座 石田和之准教授に依頼し、またアンケート調査結果から東北大病理学講座 渡辺みか准教授による「若手病理医のための診断ポイント」(腎臓腫瘍診断のポイント)を行った。また、長沼がアンケート集計結果報告も行った。一般演題は18題で、研修医、医学部学生の発表もあった。以前より若手病理医の参加が多く、参加人数は142名と盛況であった。若手病理医の評価もますます定まっていた。	26年、27年は2年2回の学術総会を行い、特別講演、教育講演のほかに若手育成教育セミナーを開催した。若手病理医への研究報告も取り上げた。学術総会ではできるだけ若手病理医を座長にした。27年8月に山形大学医療部の病理医の学校を山形市湯野温泉で開催し、盛況であった。27年11月に東北六県若手病理医をめぐって、新専門医制度のプログラム作成の為の説明会を開催した。若手病理医の会の開催、病理夏の学校開催の開催頻度の課題が残った。
	関東支部	内藤 善哉	日本病理学会の支部会の中で、最も大きな規模の関東支部会の活動の活性化や支部のあり方自体、種々の意味で日本病理学会に及ぼす影響は多大なものと考えられる。そのような支部活動の中で、若手病理医の育成を目指す学術学生や研修医への積極的な働きかけ、支部学術集会での参加を促す方策や女性病理医への支援をさらに進めてゆき、日本病理学会全体の活性化に貢献した支部活動を展開してゆきたい。	関東支部では、年4回の学術集会(12月の回は東京病理学集会を兼ねる)、1回の「病理学サマ〜セミナー夏」の学校を開催している。支部学術集会では、支部内の8都県で、東京都と各県をほぼ交互に開催場所として、学術的な知識を得るだけでなく、病理医間の緊張感や連携、種々の情報交換や議論の機会ももたれている。今後とも、支部学術集会の活性化とともに、積極的に病理医へのリクルートを促す活動を進めてゆく予定である。	平成26/27年度は当支部活動の中で、若手病理医の育成を目指した学術学生や研修医への積極的な働きかけ、とともに女性病理医への支援を推進して来た。また、日本病理学会全体に関わる専門医制度や医療安全・事故調査制度について支部会員に、適宜、周知徹底や対応などを進めた。入籍し、さらに日本病理学会や関東支部の活性化や充実を図るべく種々の活動の問題点や細部に拘り支部活動を展開してゆきたい。
	中部支部	野島 孝之	平成24年4月から第2期目として、支部を担当する事になりました。年2回の交見会、1回のスライドセミナー、夏の学校を開催しています。また、支部内のコンファレンスシステムを推進して20年以上になります。支部会員数1600名を超え、積極的に活動しています。支部会員の皆と共に努力したい所存です。なにとぞ宜しくお願い申し上げます。	年3回の支部学術集会では多くの会員が出席し、貴重な症例の経験、知識の共有、活発な討論、親睦を深めることができました。夏の学校は石川県和歌山で開催され、学部学生、初期研修医、若手病理医の参加者を得て、ベテラン病理医、研究者から強い刺激を受け、アンケート調査でも夏の学校の意義を確認できた。	年3回の支部学術集会では毎回200名を超える会員が出席し、活発な討論と支部内の親睦を深めることができました。夏の学校は石川県、福井県の温泉で開催され、多数の学部学生、初期研修医、若手病理医の参加者を得て、ベテラン病理医、研究者から強い刺激を受け、若手病理医のリクルートに非常に有益であると思われる。4月の支部長交代に伴い、支部事務局の引継ぎを円滑に行っている。
	近畿支部	大澤 政彦	会員の情報交換の場の一つである、学術集会をさらに充実したものにし、たいと考えている。そのため、その内容等についての検討が今後の課題である。また、若手病理医のリクルートや育成についてもさらに取り組んでいきたい。「夏の学校」の内容も含め、検討を行いたい。	今年度は4回の学術集会を行い、いずれの会も1500名を超える会員の参加を得、好評であった。今年度は4回行う予定で、現在企画中である。今年度初めて、学生、初期研修医を対象とした「夏の学校」を開催し、今後も若手病理医のリクルートの一環として取り組んでいきたい。	平成26/27年度はそれぞれ4回の支部会と、夏の学校を開催した。支部会では2回の午前症例検討会、午後は特別講演と腫瘍診断学講座を行った。27年度は前年度に比べ参加者41名ほどの増加があった。症例検討会は若手を中心に20症例の発表があり、活発な討論が行われた。その中から優秀な発表者3名に奨励賞を贈った。夏の学校は学生、初期研修医を対象に8月に開催した。27年度は学生、初期研修医44名が参加した。26年度に引き続き参加した学生もみられ、盛況であった。開催後の参加者からのアンケートも好評であり、今後も引き続き開催していきたい。
	中国四国支部	森谷 卓也	年1回のスライドカンファレンスを継続し、パワーポイントの活用、過去の演題のコンテンツ化についても検討する。病理夏の学校や、病理医の進(道)HPをさらに充実させ、学生や研修医に病理の魅力や伝るよう引き続き努力する。取扱い規約や保険診療などに関する業務関係の講習会を適宜実施する。	定期的スライドカンファレンス年3回と、病理夏の学校については、順調に実施されている。業務関係の講習会と、支部内のコンサルテーション制度の充実に向けて検討を継続している。若手病理医の会設立については支部役員会で立案し、平成27年6月の総会に諮ることを目指している。	年3回の支部会(スライドカンファレンス)は滞りなく(運営されており、病理専門医更新のための講習会(共通講習および専門医)を組み合わせ、また、学術奨励賞を策定した。若手病理医の会を立ち上げた。専門医取得のために標本閲覧可能な支部内の施設をリストアップした。病理夏の学校も順調に実施されている。
	九州沖縄支部	横山 繁生	H24-25年の任期中、新規事業として若手病理医の為に「ティーチングファイル(TF)制作とそのヴァーチャルスライド化」「若手病理医の会」発足が完了した。H26-27年度の新規事業計画は未だありませんが、例年通り年6回のスライド、年1回の病理学集会、年2回の学術講演、支部活動は順調で、前述のTF「若手病理医の会」企画の講演会、軌道に乗ってきた病理学学校等の継続「充実」に努めたいと考えています。	年6回のスライド、スライドに合わせて年1回の病理学集会、年2回の学術講演、第4回病理学学校を開催した。支部HPを充実させた。過去のスライド出題例、若手病理医のための「ティーチングファイル」学術講演内容を閲覧できるようにした。また、本年度より若手病理医を対象とした顕彰制度として「優秀症例報告賞」を設けた。支部活動は順調で、これらの継続「充実」に努めるとともに、若手病理医のリクルートを図りたい。	H26-27年の任期中の新規事業として若手病理医を対象とした顕彰制度として「優秀症例報告賞」を設け、昨年1名が受賞された。また、例年通り、年6回のスライド、病理学集会(年一回)、学術講演(年二回)、病理学学校(昨年が年一回)を開催した。「若手病理医の会」の活動が活発で、スライド開催日の前中に「ティーチングファイル」を用いた勉強会やベテラン病理医による講演会を開催している。本年度からは、新体制で、まず九州・沖縄支部が盛り上がることを期待している。

「専門医認定第三者機関」設立に向けた病理学会準備ワーキンググループ

本ワーキンググループでは、日本専門医機構による専門医制度研修プログラム整備指針に則って病理専門医の研修プログラムの整備を行い、専門医資格更新基準の設置に向けた議論を行う予定である。WG委員は7名である。

平成26年度に2回、平成27年度に2回の会議を行い、検討を進めている。平成27年度分の議事要旨について以下に示す。

平成27年度 第1回「専門医認定第三者機関」設立に向けた病理学会準備ワーキンググループ（専門医認定準備WG）議事要旨

開催日時： 2015年4月29日（水）13:50～14:50

場所： 名古屋国際会議場2号館・3階・232

WG委員： 清水道生（博慈会記念総合病院） 田村浩一（東京逋信病院） 小西 登（奈良県立医大） 村田哲也（鈴鹿中央総合病院） 北川昌伸（東京医科歯科大）

オブザーバー： 深山正久（理事長） 黒田 誠（専門医制度運営委員会委員長）

欠席者： 山川光徳（山形大） 柳井広之（岡山大）

協議事項：

1. 平成26年度 第2回「専門医認定第三者機関」設立に向けた病理学会準備ワーキンググループ（専門医認定準備WG）議事要旨（案）（資料1）が承認された。
2. 資格更新基準について
 - 1) 資料2-1に基づいてこれまでに寄せられた質問等が紹介され、確認された。
 - 2) 資料2-2の案件（崎田先生の件）について議論し、旧システムで資格更新してもらうこととした。
3. 病理専門医プログラム整備基準と専門医機構からの回答について
 - 1) 修正すべき箇所の確認について：資料3-1と資料3-2に基づいて確認した。
 - 2) 回答で指摘を受けた「修正・追加すべき内容」について以下のように対応することとした。
 - ・修了要件中「病理学会正会員であること」 「病理領域に従事していること」に修正する。
 - ・専門医研修手帳に年次毎の専攻医の成長がわかるような記載をするため、A4用紙を1枚追加する（田村委員に依頼）。
 - ・専攻医マニュアルを整備する（田村委員に依頼）。
4. 日本専門医機構との協議、新制度の会員への周知計画、学会・支部会等で必要となる

準備：今後の予定について確認した。

報告事項：

- 1．病理専門医資格更新申請書類を専門医全員に郵送にて配布したことが報告された。
- 2．第 104 回日本病理学会総会において、専門医資格更新に必要な各種講習会を開催し、受講証を発行する予定であることが報告された。
- 3．基本領域学会との連携の在り方に関するWG 第 1 回検討会が、4 月 22 日（水）17:00～18:30、東京国際フォーラム ガラス棟（東京都千代田区丸の内 3-5-1）において開催され、北川と宮本が出席したことが報告され、議事内容のメモ（資料 4）が確認された。

平成 27 年度 第 2 回「専門医認定第三者機関」設立に向けた病理学会準備ワーキンググループ（専門医認定準備 WG）議事要旨

開催日時： 2015 年 11 月 4 日（水）13：50～14：45

場所： TKP ガーデンシティ御茶ノ水 3F 会議室 3C-2

WG 委員： 清水道生（博慈会病院） 村田哲也（鈴鹿中央総合病院） 大橋健一（横浜市大）
笹島ゆう子（帝京大） 中黒匡人（名古屋大） 北川昌伸（東京医科歯科大）

オブザーバー： 深山正久（理事長） 黒田 誠（病理専門医制度運営委員長）

欠席者： 小西 登（奈良県立医大）

協議事項：

1. 平成 27 年度 第 1 回「専門医認定第三者機関」設立に向けた病理学会準備ワーキンググループ（専門医認定準備 WG）議事要旨（資料 1）が承認された。
2. 専門医資格更新について：2016 年度（2015 年秋）病理専門医資格更新申請が 10 月 31 日に締め切られ、462 名から申請があったこと、多くの問い合わせ、質問が殺到したことが報告され（資料 2）、今後に向けた対策について協議した。その結果、わかりやすく申請手続きを解説した文書を作成して（村田委員、中黒委員担当）、来年度の資格更新該当者に配布、あるいは HP に公表する予定とした。
3. 研修プログラムについて：専門医機構のアンケート結果を受けて基幹施設を希望する施設一覧と予定連携施設が示された（資料 3）。村田委員よりいくつか問題のありそうな施設群があることが指摘され、今後のスケジュール（資料 4）の中で対応する予定とした。
4. 日本専門医機構との協議、新制度の会員への周知計画、学会・支部会等で必要となる準備：今後の予定についてさらに準備を進めることとした。
5. その他：日本専門医機構のロゴマーク選定に関するアンケートに対する回答について協議した。

報告事項：

1. 第 104 回日本病理学会総会において、専門医資格更新に必要な各種講習会を開催し、受講生を発行した（領域別講習、共通講習）ことが報告された。
2. 2015 年 6 月～7 月に専門医研修プログラムについての説明会を 7 支部会で行った（清水、村田、北川）ことが報告された。
3. 日本専門医機構より 9 月 7 日付で病理領域モデル専門研修プログラム（都市型・地方

型)が承認され、学会ホームページに公開した(機構ホームページは掲載準備中)ことが報告された。

- 4 . 2015 年 9 月 11 日付で専門医認定準備 WG ならびに日本専門医機構専門医委員の委員交代が行われた(資料 5)ことが報告された。
- 5 . 2015 年 9 月 18 日に日本専門医機構の専門研修プログラム施設評価・認定部門/基本領域研修委員会プログラム申請事前説明会に参加(村田、柴原、北川、宮本事務局員)したことが報告された。
- 6 . 2015 年 10 月 5 日、6 日に、日本病理学会事務局にてプログラム事前審査委員に対して審査方法等(資料 6)の説明会を行ったことが報告された。
- 7 . 第 61 回日本病理学会秋期特別総会、病理専門者指導者研修会(FD)(学会 2 日目、11 月 6 日(金)12:10~13:10、東京大学 医学部 1 号館 講堂)にて日本専門医機構・専門研修プログラム研修施設評価・認定部門委員の高橋 誠先生に専門研修プログラム申請書記載方法について説明していただく予定であることが報告された。
- 8 . 新専門医制度について:現在学会ホームページに公開されている文書のリスト(資料 7)が報告された。